

学徒動員の想い出

17期 山田 長成

戦争の惨めさを子供・孫達に残そうと兵役の経験はありませんが学徒動員のことを書いてみました。

昭和19年4月戦争末期、私は秋田県立能代中学校（現能代高校）4年生（15歳）の時、同期生約百五十名と共に群馬県吾妻郡小泉中島飛行機製作所小泉海軍工場に学徒として動員された時代の想い出であります。

（注 中島飛行機製作所は、現富士重工です）

🍀おにぎりが納豆に化けた

能代駅出発日に母親がおにぎり3日分（20個）持たせてくれ、3日目の朝に旧国鉄両毛線佐野駅に着く予定が、空襲等で5日目朝となり、佐野駅に到着前に先生より朝食を摂るよう指示があり、食べようと出したところ、大事に残していた同期生全員のおにぎりが、納豆のように糸が引いており、列車の窓から捨てたところ、付近の人達が拾って食べていました（戦時中の食糧難でありました）。

🍀七目飯の歓迎夕食会

私達学徒の宿泊の寮は群馬県吾妻郡小泉にあり、別棟の大食堂での夕食は赤飯にたくさんの具が入っているようで、おにぎりを途中で捨てているので空腹のため皆でわあーと叫んで食べたところ、まずくて嘔まずに汁で腹に落としました。中身は米・麦・コウリヤン・大豆・ジャガイモ・昆布・野菜の葉の七色でした（米は数える程度）。

🍀生活は180度回転した

出発前の説明では、毎日2時間勉強するから教科書持参・工場勤務は午前10時～午後3時まで・午後3時から午後5時まで自由行動でしたが、真っ赤な嘘。到着2日目に仕事の内容を説明し、3日目から8時間労働でした。

🍀教科書が消えた

海軍省・軍需省・軍需工場のお偉方の厳しい訓示の後、教科書の提示を求められ、私達学生の前で焼かれました。

🍀毎日が体育の日

寮から工場まで6キロメートル、朝5時起床・6時朝食・7時出発。軍歌を歌って駆け足の行軍、8時前工場着の毎日でした。

🍀鉛筆が油とサツマイモになった

仕事の内容は飛行機（零戦）の脚部の油圧検査と電気系統の検査で、半日の指導で10班に編成され、午後から即実務となりました。油圧検査は群馬県・栃木県の下請工場の製品検査でした。油圧力100で合格、100以下は不合格として即時返品。不良品は圧力70位でホースが破れ、全身油で汚れます。油は魚を加工したもので、生臭い悪臭があり、シラミ発生の原因となります。下請会社から持ってくる人は徴用工、学徒として学業半ばの女学生で私達と同年配の人や、年を取った人達で可哀想であり、私達も油を被るのが嫌なため、圧力50位で合格にしました（飛行機は毎日完成しますが、燃料がなくて飛ぶことは出来ませんでした）。下請工場の人達は喜んで帰り、次回にサツマイモを持ってきてくれました。今思えば、私達の検査した飛行機は故障で飛行することが出来ず、人命救助になりました。

🍀B29の空襲があつて飛行機は飛ばず

トラックが走り赤トンボが飛んだ

工場敷地内に飛行場があり、工場で完成した飛行機をトラックで運んでいました。飛行機の数よりトラックの数が多かったのです。それは空襲になると、燃料が悪いので飛行機

は飛ぶことが出来ず、トラックが一斉に走って飛行機をエンタイ壕に移動させる目的でした。トラックは各地から徴用したもので、米代トラック、丸通米内沢のトラックも見えました。空襲で飛ぶのは、群馬県熊谷市にある陸軍飛行学校の複葉の練習機（通称赤トンボ）で、校長訓辞「B 29に体当たりせよ」B 29は高度4000メートル、赤トンボは800メートルです。

◆シラミと学徒

能代を出発して一カ月くらいになった頃、部屋の同居者全員が身体がかゆくなり、裸になって衣類を調べたところ、縫い目にシラミの行列でした。他の部屋の人達も私達と同じでシラミで騒いでおりました。先生に相談したところ、君たちは不潔だからと言って応じてくれませんでした。先生の部屋は寝台急行列車に喩えればA級寝台車で部屋もきれいで立派、寝具類は別格、薬も常備。

そこで私達全員で対策を相談し、全員のシラミを集め先生の部屋に放すことにしました。集めたらジュースの小瓶にいっぱいあり、天井裏から先生の部屋の押入れに少量ずつ四、五回撒いてきました。効果てきめん、十日経ってから、先生が「君たちからシラミの話聞いたが先生の部屋にもシラミが発

生した」と言って会社に相談しました。数日後会社からシラミ駆除用として薬剤を散布されたが効き目なし。一年間ペットとしました。

◆腹が減っては戦が出来ない

毎日の七目めし一杯では空腹でどうにもならず農家で干しているサツマイモを無断でいただくことにしたが、干している場所が瓦葺き屋根のため音がしてすぐにバレ、有刺鉄線・犬等で対策され失敗でした。

花輪から来ている同僚に鹿角リングを送らせたり、工場より食器（アルマイト）を無断でいただき農家と物々交換・雑炊食堂と裏口交渉したりして空腹を凌ぎました。

◆偉い軍人と先生は別格

将校と下士官と兵は食物に差がありました。将校は白いご飯と魚・肉・コーヒー・果物。下士官は白いご飯と魚。兵は私達学徒と同じ七目飯。先生は将校と同じ。徴用工は米が入っていない六目飯。支那人と朝鮮人は六目飯の残飯。

将校と先生は別格でした。

◆全員でいじめ対策

宿舍は六棟あって、各々の学校（大館・能

代・秋田・本荘・角館・横手）が入所しており、同期生同士の喧嘩・いじめはありませんでしたが、学校毎の喧嘩は時々ありました。能代と大館、秋田と本荘、角館と横手、たまに県北と中央、中央と県南と地区毎の喧嘩もありました。

工場内で仕事のトラブルで能代の一班全員が工場の指導者に注意でなく制裁を受けた場合は、すぐに各班に伝令が走り、同期全員が集まり抗議し、相手が撤回しない場合は他工場（大館・秋田）も集まりました。工場の指導者は学生の団結力を知り、学生に対し一目おくようになりました。徴用工は団結力がないため可哀想でした。

◆さすが東大卒の偉い人

工場長・設計部長は東大卒（工学部）の海軍大佐で、敗戦が濃くなった秋頃、私達学徒に對し、「日本は負ける。これからは若い君達の時代となる。勉強しなさい」と言い、そのため学徒全員が設計部併任となり交替で勤務しました。

◆小林伴蔵先生と面会

秋田の父から手紙が来て「小林伴蔵が召集になり群馬県太田市の陸軍飛行基地に配置されているから面会に行くように」と書いて

あったので、日曜日に面会に赴き、守衛所に行って、「秋田から召集になって来た小林伴蔵先生に面会に来た」と言ったところ、守衛は、「秋田の小林ではわからないので階級を言ってください」と言われました。「わかりません」と答えたら、「小林という兵隊は沢山いるからどうにもならない」と困っていました。

そこに将校（陸軍大尉）が巡回に来て質問されました。事情を話したところ、「相手は小林二等兵である。私について来なさい」と案内してくださった。将校室に入り部下に小林二等兵をここに呼ぶように命令され、「来るまでここで待つて下さい」とサイダー・果物・菓子を出して食べさせ、「残った菓子を袋に入れて寮に持って行きなさい」と持たせました。30分程経って小林先生が来まして「長成、元氣か、よく来てくれた」と私に言った途端、将校が「小林二等兵、長成と呼ぶとは何事か！この学生さんは学業半ばで学徒動員で近くの小泉海軍工場に来て零戦作りをしているのだ。言葉を慎み給え」と叱り、小林先生が不動の姿勢で「小林二等兵分かりました。申し訳ありません」と将校に最敬礼しました。先生を可哀想に思いましたが、上官は偉い人と感じました。

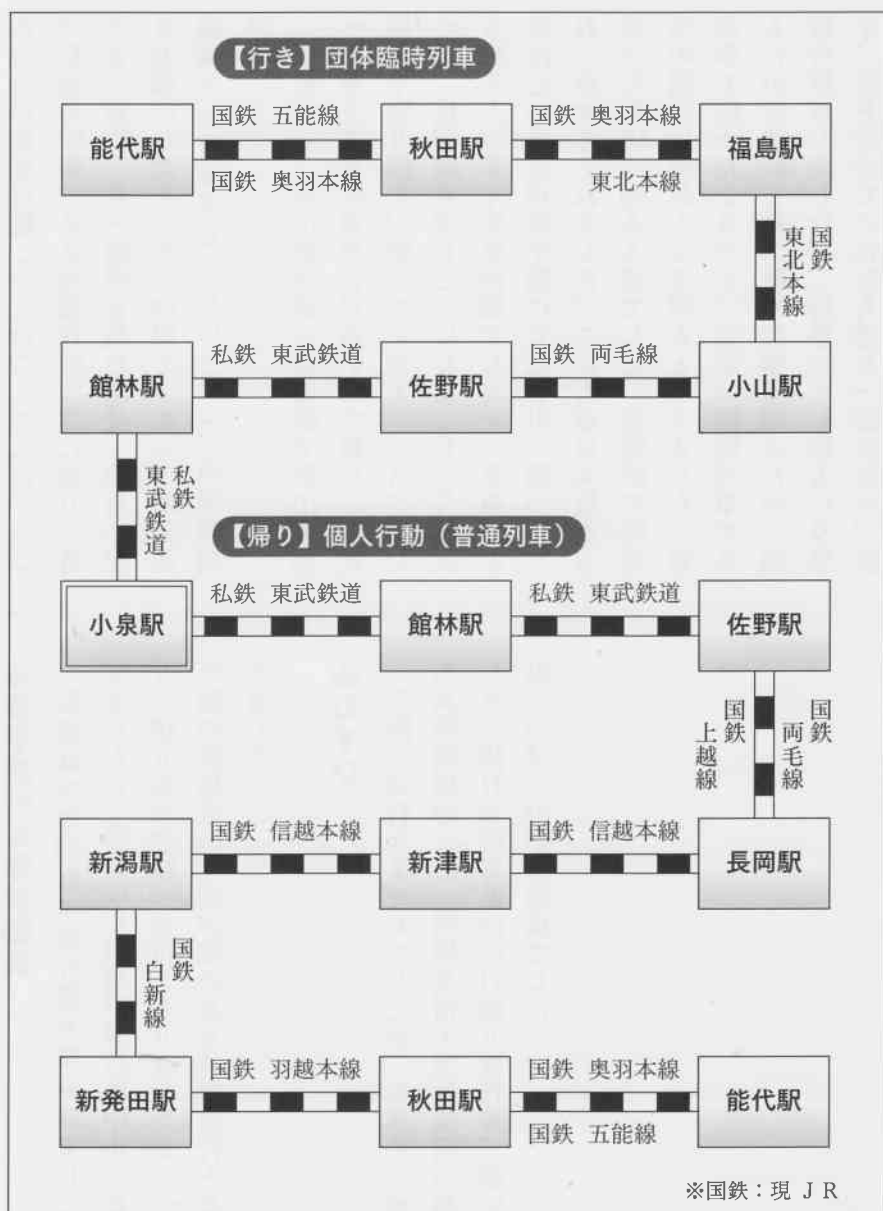
東京大空襲

B 29に東京が空襲され全滅した時、先生から布団をかぶって部屋から出るなど言われたが、見たくて全員屋上に出て空を見ると、東京の空が真っ赤で時々ドーンと花火のような音がしました。あとで先生から「なぜ部屋からでるな」と言われたかがわかりました。そ

れは日本軍の撃った高射砲の弾丸の破片で負傷するからという注意でした。（高射砲の弾丸は一定の高さで破裂する）

工場が消えた

昭和20年に入ると毎日のように空襲警報が発令される中で、2月に入ると夜中に突然空



襲撃報が発令、不気味な音（ゴウ・キーン）が起こり、布団を被っておそるおそる屋上に上ると、米軍のグラマンが寮の上から急降下して工場と飛行場に対し機関銃で鋭光弾の連射、B 29は工場・飛行場の真上から爆弾投下を繰り返し、大きな音・火柱・真っ赤な炎とまるで地獄絵図そのものでした。

朝になると静かになり、工場に行く途中にあった工員宿舎は焼失し死体が見えました。工場に着くと建屋は全壊、焼けた機械器具機器・焼死体・飛行機とトラックの残骸でした。

後の会社の高官の話によれば、工場に米国のスパイがおって、爆撃箇所を決め誘導して的確に目的を果たしたもので、学徒は日本の将来のため爆撃箇所に入っていなかったとのことでした。

❖干し餅といり豆で家に帰る事ができた

工場が無くなり、各校の学徒は秋田に帰るようと命令され、臨時列車が毎日運行しているから学校単位で帰れとのことでした。

小泉に来る時は特別列車、帰る時は一般客も乗車する新潟行きの臨時列車。乗車券は会社が乗車駅である佐野駅に連絡しておくから個人で購入とのこと。会社は無責任そのものでした。私達は一週間後、佐野駅に集合して事情を話したところ、会社から連絡は

あったが乗車は難しいとのことでした。そこで私達の戦術である物量作戦実施に移り、各自より果物・米・餅等を集め駅長・駅員に配りお願いしたところ、効果てきめん、駅員の誘導で全員乗車しました（但し次の臨時列車）。

駅員から「途中新津駅・新潟駅で秋田方面への乗り換えは乗車客が多いので難しい、長岡駅で乗り換えが楽だ」とアドバイスされたので、長岡駅で乗ることにしました。長岡駅も乗る人が多く乗車困難でしたが、客車の中央付近の乗客が窓を開けて私を引っ張ってくれ、乗せてくれました。この人達は大阪から乗った秋田へ帰る人達でした。長岡駅で同期生の団体は解散となり個人となりました。皆無事で帰ったようです。列車は臨時列車であるため新津駅と新潟駅で空襲警報のため一晩臨時停車しましたが、持参の干し餅といり豆を、私を乗せてくれた人達と一緒に食べ、空腹を満たしました。

❖家への土産はシラミ

群馬県にいる一年間、生活費・食費・衣類・穀物を送ってもらった御礼として土産はシラミでした。母が家の前で私を裸にして衣類を焼いてくれ、一年間ペットだったシラミとさよならしました。

❖修学旅行は学徒動員

私達は四年間修学旅行費を積み立てて来ましたが、戦争のため修学旅行は中止となり、積立金は学校へ寄付となりましたが、一年間の群馬県の生活が実のある修学旅行となりました。

❖むすび

兵隊には行きませんでした、生きるための兵隊同様の生活・同期友情・団体生活の厳しさ・休日の群馬県内の日帰り旅行等、想い出いっぱい学徒動員でした。